

とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略 概要

I 策定の趣旨・目的、期間

- 42年ぶりに開催されたいちご一会とちぎ国体、本県初開催のいちご一会とちぎ大会の有形・無形のレガシーを継承し、「新しいとちぎ」づくりにどのようにつなげていくかが課題
- 本県のスポーツを活用した地域活性化の推進に向けて、県として取り組むべき施策の方向性の提示
- 期間 令和5(2023)～7(2025)年度(3年間)

II 本県におけるスポーツを取り巻く状況

1 県内の状況

- (1)東京2020オリンピック・パラリンピック及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催によるスポーツに対する県民の機運向上と「新しいとちぎ」づくりへの期待
- (2)県民総スポーツの推進拠点たる「総合スポーツゾーン」の完成
- (3)県内プロスポーツ、社会人・学生スポーツの活躍と有望選手の輩出
 - ・宇都宮ブレックス、LIEBE 栃木、グラクソ・スミスクライン、白鷗大学バスケ、國學院栃木高ラグビー、足大附高弓道の活躍
- (4)全国から参加者が集まる民間主導による県内スポーツイベントの開催
 - ・日光国立公園マウンテンランニング、那須高原ロングライド 等
- (5)スポーツによる地域活性化に取り組む県内自治体の登場
 - ・宇都宮市(戦略)、矢板市(コミッション設立)、栃木市(計画)、小山市・野木町(イベント)
- (6)市町や民間との連携による県域レベルのスポーツイベントの展開
 - ・ツール・ド・とちぎ～ぐるとち(2022)開催

2 全国の状況

- (1)スポーツツーリズムに対するニーズの高まり
 - ・国「スポーツツーリズム推進基本方針」の策定(2011)
- (2)国による第3期スポーツ基本計画の策定
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展に資する重点施策の1つとして「地方創生・まちづくり」
- (3)他団体のスポーツコミッションの設立等による地域活性化の推進
 - ・地域スポーツコミッションの設立数 177 団体 (R3.10 現在)

3 本県のスポーツを活用した地域活性化に向けた強みと今後の課題等

- (1)地理的・文化的特性 ①恵まれた立地環境 ②豊富な自然資源(温泉利用宿泊施設数全国9位) ③地域に根差した歴史・文化、食
- (2)県内のスポーツ資源

- ①スポーツ施設・公共施設 1,032 ヲ所、民間スポーツ施設 638 ヲ所 ・本県スポーツ施設提供業 人口10万人当たり17.5 ヲ所(全国最多)
 - ・国体本大会と冬季大会両方の開催実績 ・利用状況 1,100 万人程度(～H30)で推移→500 万人を下回る水準(R2)

※スポーツ関係施設 とちぎスポーツ医科学センター設置(令和2(2020)年)

➡(独法)日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携機関に指定(全国で9公共施設及び8大学のみ)

- ②プロスポーツチームの状況 6競技8チームが存在（プロがある競技数 全国トップレベル）
- ③県内開催の主なスポーツ大会・イベント 38競技99大会（2019～21） ・大会を契機として本県の魅力ある食や農、文化等につながる取組の必要性
- ④県内スポーツ合宿の実施状況 ・水泳飛込競技日本代表合宿（日環アリーナ栃木） ・知的障害者サッカー日本代表候補強化合宿（さくらスタジアム）等
- ⑤地域に根づくスポーツ文化 足利市（レスリング）、大田原市（相撲）、矢板市（サッカー）、日光市（ホッケー）、佐野市（クリケット） 等
- ⑥スポーツ・アクティビティの提供状況 県内各地におけるラフティングやカヌー、SUP、トレッキングやハイキング、キャニオニングなど、豊富な自然等を生かした魅力的なスポーツ・アクティビティの存在

(3)本県への観光客入込動向 減少した国内外の観光客の呼び戻しに向けた態勢整備の必要性 観光客入込数 95,436千人(H30(2018))→ 64,138千人(R3(2021))

(4)いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の有形・無形のレガシーの継承

【国際オリンピック委員会の分類を参考とした整理】

区分	内容	いちご一会とちぎ国体等のレガシー
スポーツ レガシー	スポーツ実施人口の変遷や スポーツ環境の変化など	<ul style="list-style-type: none"> ●する、みる、ささえる様々な形でのスポーツ参画人口の拡大 ●充実したスポーツ施設 ●スポーツ及びパラスポーツへの関心の高まり 等
社会 レガシー	官民一体の体制づくり、オ リンピック・パラリンピッ ク教育の推進など	<ul style="list-style-type: none"> ●官民一体となったいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会による運営体制・ノウハウの構築 ●両大会への企業協賛等スポーツへの社会的理解の促進 ●いちご一会運動オールとちぎプロジェクトや航空会社職員によるおもてなし研修会の開催等による県民総参加でのおもてなしの醸成 ●障害及び障害者並びに障害者スポーツへの理解促進 ●デモンストレーションスポーツへの参加等を通じた健康づくりへの意識の高まり 等
環境 レガシー	都市再生、再生可能エネル ギーなど	<ul style="list-style-type: none"> ●県内企業の技術力を生かした取組（再生PET素材のユニフォーム等）やCO2フリーの「とちぎふるさと電気」の活用、FCV、EVを活用した電力供給による環境配慮の取組の一層の推進 等
都市 レガシー	公共交通インフラの整備、 バリアフリー化など	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ施設、宿泊施設等のバリアフリー化 ●国体会場近隣での栃木県ABCプロジェクトの実施による新たな公共交通に向けた機運の高まり 等
経済 レガシー	雇用創出やテクノロジーの 発達など	<ul style="list-style-type: none"> ●国体等の開催を契機とした新たな雇用、全国から来県した選手等による交通、飲食等の消費増加 ●とちぎおもてなし電子クーポンの発行等による新たな栃木ファンの獲得 等

(5)スポーツを活用した地域活性化に向けたSWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	【強み (Strength)】 ○東京圏からのアクセスの良さ ○充実したスポーツ施設 ○多くの競技における地域に密着したプロスポーツチームの存在 ○とちぎ医科学センターによるパフォーマンス向上につながる充実したサポート ○温泉、農産物、伝統工芸品、歴史・文化等の多様な地域資源 ○山や川、湖など豊富な自然を生かした県内各地で行われるアクティビティ 等	【弱み (Weakness)】 ○スポーツと観光や農業、文化など他産業とつなげる組織がない ○スポーツを生かした地域活性化、地方創生等に向けた人材・情報不足 ○本県スポーツ施設等の利活用推進に向けた情報発信の不足 ○スポーツを「する」「みる」「ささえる」それぞれを目的とする旅行者等の受入環境の整備不足 等
外部環境	【機会 (Opportunity)】 ○東京オリパラや世界陸上等の開催によるスポーツの機運向上 ○ワーケーションや多様な働き方の推進等新しい生活様式の定着 ○デジタル社会の進展による迅速で広範なPR機会の確保 等	【脅威 (Threat)】 ○少子・超高齢化社会の到来や社会的人口移動等による人口減少による担い手やスポーツ活動の需要の不足 ○新型コロナウイルス感染症によるスポーツマインドの低下 ○他自治体によるスポーツツーリズムの推進による競争の発生 等

【強みを最大限に生かした取組】

スポーツツーリズムによる地域活性化の推進

○スポーツイベント・大会・合宿等の誘致 ○スポーツやアクティビティを目的とする来県増加 等

(6)様々な地域別特徴を生かした取組（日光、那須、県央、県東、県南エリア）

(7)県内スポーツツーリズムに対するニーズ・期待等 ①スポーツを見ることへの関心の高まり ②県民のスポーツツーリズムへの期待等

Ⅲ スポーツを活用した地域活性化・地方創生等の目指すべき姿

- スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進により県内にスポーツツーリズムが普及し、県内外の交流人口の拡大を通じ、にぎわいにあふれ、地域が活性化
- 高齢者、女性、子ども、障害者など誰もが健康でいきいきと暮らし活躍 ○スポーツを通じたとちぎのブランド力向上が図られ、県民がふるさとに愛着や誇り

Ⅳ 本県のスポーツを活用した地域活性化・地方創生等の具体的な取組

1 スポーツツーリズムの推進による地域活性化・地方創生への取組

(1) スポーツコミッションの設立

【KPI①：地域スポーツコミッションの設立】1団体（2023年度）

- 大規模大会やスポーツイベント等の戦略的誘致等に向けた体制整備
- 専門性が高く、戦略的な体制の構築とともに、将来的な自走を念頭に置いた人材育成等への取組
- スポーツ振興課の教育委員会事務局から知事部局への移管による観光、文化等と一体となったスポーツツーリズムの推進しやすい体制への移行

② 大規模大会・スポーツイベント等の誘致

【KPI②：大規模大会や国際大会の誘致】複数回誘致（2025年度までに）

- スポーツコミッションによる情報収集、施設調整、開催費用の一部助成等の各種支援
- スポーツイベントの類型化、対象の絞り込み、ターゲット及び開催に必要な項目等の明確化
- 新リーグの設立や（一社）大学スポーツ協会など、新たなスポーツ振興の枠組みに着目

③ スポーツ合宿等の誘致

【KPI③：スポーツ合宿等の相談団体数】300団体（2025年度）

- 宿泊費用の一部助成、高い競技力を有する県内スポーツ団体等を活用した練習相手の確保支援や合宿地におけるおもてなし、とちぎスポーツ医科学センターにおけるトレーニングメニューの提案など合宿地として選ばれる仕組みづくり、円滑な実施に向けた各種支援
- 県内団体によるAIや5Gなど未来技術を活用した最先端のトレーニング環境の整備 等

④ テーマ別スポーツツーリズムの推進

- サイクルツーリズム 「栃木県自転車活用推進計画」に基づく取組
- アウトドアツーリズム 新とちぎ観光立県戦略に基づくアウトドアコンテンツ造成・磨き上げの促進
- ゴルフツーリズム 10万人当たり施設数は全国最多（県内ゴルフ場数153（全国第3位））とちまるゴルフクラブ（県民ゴルフ場）利用者数過去最高38,193人
- 新たなテーマ別ツーリズムの検討 競技特性やニーズを捉えた新たなテーマの検討

⑤ スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等の推進

- スポーツ大会等での食や文化等の発信やデジタルマーケティングの活用
- 地域資源に触れる機会の創出
- グリーンツーリズムとの連携
- アーバンスポーツ（スケートボードやBMX、スポーツクライミング等）への期待
- 県営都市公園の利活用推進
- Eバイクの活用等による周遊観光の推進
- 市町で行われた競技の定着
- eスポーツの活用（とちぎeスポーツフェスタ（仮称）等の開催）

⑥ 県民協働によるスポーツツーリズムの推進

【KPI④：いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会レガシー基金への寄附の件数】50件（2025年度までに）











- スポーツボランティアの育成
- いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会レガシー基金の設置による県民等からの寄附の受入れによる施策への反映

2 社会的な課題に係るスポーツコミッションによるデジタルも活用した県外への情報発信等

「スポーツへの関心の高まり」を生かした社会的な課題の認知度向上、理解促進等

- (1) スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり
 - (2) スポーツを通じた女性活躍の促進
 - (3) スポーツを通じた障害及び障害者への理解促進、共生社会の実現
 - (4) スポーツを通じた健康増進
- ・陸上競技男女混合4×400mリレーなど新しい男女混合種目の登場を契機とした人々の意識の変革

V スポーツを活用したSDGsへの貢献

No.	項目	関連するゴール
1	スポーツツーリズムの推進による地域活性化・地方創生への取組	     
2	社会的な課題に係るスポーツコミッションによるデジタルも活用した県外への情報発信等	   

VI とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略の推進体制及び進行管理